



令和4年度地域おこし学校「こうちみませ楽舎」

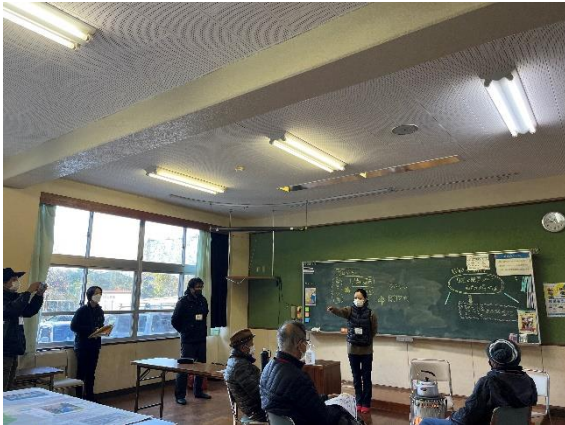
## 成果発表会・修了式【6】

### ◆成果発表会・修了式

12月10日（土）に地域おこし学校「こうちみませ楽舎」成果発表会が開催されました。

受講生がこれまで学んできた知識を披露する「成果発表会」。約3か月間、それぞれの教室で受講生たちが知識を得て、自ら主体的に考えて実行してきた姿は、とても格好良かったです。

一言で「地域おこし」と言っても、そのアプローチ方法はさまざまです。今回、地域を想い、自分の可能性を広げる気持ちがある方々が、こうちみませ楽舎に集まりました。



教室①「自分のまちが好きになる アニメーターと行く、御畳瀬でロケハン！」では、成果発表を前に緊張している受講生たちを和ませようと、講師の心遣いでストーブを囲み最後の授業です。

この教室では、御畳瀬地区を独自の視点でまち歩きをして、そこで感じた自分の思いを1枚の作品にまとめあげました。



最後の仕上げに、これまでのロケハン作品を大きなパネルに貼り付け、体育館に展示する

大事な作業をしました。大きな模造紙を、破れないようにパネルに貼り付けていく作業は難しく、みんなで声を掛け合いながら貼り付けていきました。3畳ほどの大きさのパネルは圧巻です。

いつもと違うまち歩きの楽しさを習得した受講生たちは、自分のまちが今以上に好きになったに違いありません。



教室②「災害に備える！キャンプで使える！防災アウトドア入門」では、「食を考える」「住を考える」「ライフラインを考える」の3つのテーマで学び、その学びを活かして、オリジナル非常持ち出し袋を作成しました。

”防災を特別視しない”普段から使い慣れている道具を中心に詰めていきました。

発表直前の授業では、菊間先生から「『学んだこと』『具体的なエピソード』を交えながら、「防災セット」の披露をしてください」と指示が入ります。これまでの「学び」と「実践」の総復習の時間です。先生と受講生の間には、しっかりとした絆が結ばれており、受講生が安心して発表に移れるように、先生の声掛けが最後の最後まで続きました。

それぞれの教室で最後の授業が終わると、成果発表会の会場である体育館に移動します。受講生は、最後までやり切った充実した表情をしている方や、これからの成果発表会に少し緊張している方など、さまざまです。

#### ◆いよいよ成果発表会



まずは、本校名誉校長である岡崎誠也市長より、受講生や見学者に対してのあいさつがありました。「長浜・御畳瀬・浦戸地域は、かつては海運で栄えたパワーのあるまち。まちを歩けば、史跡や漁業の営みを感じられます。小高い丘からの眺めは、素晴らしい風景です」と3地域の紹介をしました。

また、「教室での学びを、ぜひご自身の生活に活かしてください。地域との関わりを継続的に持っていただくことで、地域が活性化します」とコメント。



次に、本校校長である、黒笹慈幾さんからは「地域活動での発見の積み重ねが人生を楽しくしたいと思います。積極的に学ぶ姿勢は素晴らしいですね。3地域の資源を大切に、魅力的でユニークな地域おこしにも期待しています」とごあいさつの言葉をいただきました。

#### ◆教室①「自分のまちが好きになる アニメーターと行く、御豊瀬でロケハン！」



さあ、いよいよ教室①の発表です。

成果物の「ロケハン作品集」は、あらかじめ皆さんの席に配布。初披露の作品集に皆さん興味津々です。

そんな中、受講生1人1人が、自分の作品について発表していきます。同じフィールドに立っても、受講生の着眼点はそれぞれ。出来がった作品を見比べるのもこの教室の魅力



の1つでした。ロケハンを通じて、答えのないものを可視化していく過程を話す受講生や、御豊瀬地区の歴史に触れながら話す受講生などさまざまです。

ある受講生は、「御豊瀬の海ばかりに注目してしたが、この教室を通しフィールドに出てみると、陸地にも素敵なお場所がたくさんあった。気づきの連続で楽しかった。

これからは、日常の中で見過ごしていたものをちゃんと見て考える時間を設けたい」といった、前向きな感想と共に作品の説明をしていました。

今回、御豊瀬在住の受講生が多く、細かな視点から生まれた作品たちは、今後の御豊瀬

のまち歩きにきっと役立つことでしょう！！

### ◆教室②「災害に備える！キャンプで使える！防災アウトドア入門」



続いて、教室②の発表です。各グループが「オリジナル非常持ち出し袋」を披露しました。前回の授業で学んだ「災害時に必要な行動と資質」や具体的なエピソードなどを説明に加えながら、各グループの発表が続いていきました。



受講生の発表の中で特に印象的だったのは、「防災を意識することで、普段の生活を見直すきっかけになった。自分が何を出来るのか。誰を助けることが出来るのか。積極的に考えるようになった」との感想です。

また見学者からは「アウトドア知識が災害時に役立つとは、普段から意識することがなかった」「防災用袋だからと言って、特別なものを用意する必要はなく、普段使い慣れている道具で良いと分かった」などの声も聞こえました。

発表終了後、岡崎名誉校長からも「こうちみませ楽舎を通して、新しい絆が生まれたと思います。今後も、鮮度の高い発想力と行動力で地域を盛り上げてください。そして、これからの地域おこしにみませ楽舎で出逢った仲間と一緒に盛り上げて行って欲しいです」とコメントを頂きました。

## ◆みんなで学びを深めるワーク



全体の成果発表会がおわり、受講生の肩の力も抜けたところで、これまでの学びを記録と記憶に留めておく時間に移ります。

こちらのワークを担当されたのが、教室①の講師でもお世話になった、NPO 法人土佐山アカデミー事務局長の吉富慎作さんです。これまでの振り返りを通して、講師側からの気づきや感想を述べ、最後まで受講生に寄り添っていただきました。



ワークの内容は、ワークシートとミニキャンバスを使用し、具体的なエピソードとそこから得られた気づき・学び、これから生かせそうなこと、自分の学びを一言で表す時間が設けられました。

自分の体験の整理や、この学びを地域にどう還元していくのか？最後は、自分の気持ちをアウトプットしていきました。



ここで、黒笹校長から全体を通しての講評をいただきました。「3地域は、面白い可能

性を秘めた地域であり、またそれを許容できるまち。フィールドワークを通じて、発見した面白い・楽しいをこれからもっと追及して欲しい」と地域の視点に立った感想をいただきました。



ワークの後は、「課題解決×人材育成」を目的とした、こうちみませ楽舎プレミアムクラスで主任講師を務めている、一般財団法人地域活性化センター室長の吉弘拓生さんに講評をいただきました。「1人1人の想いを大切に地域での活動を楽しみながら、がんばってください。やりたいことをカタチにしていくサポートを全力で行います」と、力強い言葉で締めてくださいました。



皆さん、約3か月間の「学び」と「実践」、大変お疲れ様でした。  
これからも地域おこし学校「こうちみませ楽舎」をよろしく願いいたします♪